

採択理由

プログラム名：先端融合領域イノベーション創出拠点の形成

課題名： 生体ゆらぎに学ぶ知的人工物と情報システム

代表者名： 宮原 秀夫

所属機関名： 大阪大学

コメント

本提案は、生体システムの機能発現の仕組みを「ゆらぎの利用」の視点から徹底的に追及し、その知見を取り入れた新しいナノ材料物質科学、情報システム科学、ロボット工学を基盤とした新たな融合領域として、概ね 10 年～15 年後にイノベーションを起こし、革新的な技術開発並びに新産業の創出などが期待されるものと評価された。

尚、委員から、以下の様な懸念も出されているので、考慮してプロジェクトを進めて頂きたい。

- ・テーマ名から研究内容がイメージ出来ず、4 つの研究テーマについて成果が出たとして、それをどうまとめてイノベーションに繋がるかが不明確である。
- ・出口の実現性には疑問がある他、それぞれは柱が総合研究的にも見える。
- ・野心的な研究テーマであるが、リスクの大きい点もあり中間評価が重要である。
- ・「ゆらぎを利用できる人工的な素子」レベルが明白に認識でき、それを効果的に利用出来るということが可視化出来るようになる迄は、組織的な融合研究よりも個別研究的な色彩が強い。
- ・イノベーションの創出を目指していくには、あまりにも長期的なものだけを見据えるのではなく、中期的にも実現可能な成果を示しながら課題を展開していく必要がある。
- ・生体ゆらぎに対する基礎研究と産学構築という目的との間に分離がある。